享保十九寅年

809
106
1

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

京保十九年三月

一 去酉極月布板御普請一件

一 去酉極月板多共外行損之分

御成小普請日席中相撰之書板中

六歩位之破損之分寅正月廿二日

御覧果合之上取換之候節御普請

小屋方ニ而絵図ニ認之板之順ニ

仕入用表様之世話加武百文拾文程

御減り候保等之

御費ニ付テハ恵帯板布松ニ而
仮渡シ新大橋西詰橋ニ小屋ヲ
并下松ニ住度旨申ニ付テハ小屋
ノ儀ハ勿論仮橋ノ工渡ニ小屋有之候
ハヽ村小屋ニ而ハ不用ニ付取払
一二月廿日西詰橋新大橋為架
年寄弐代官二人橋番三右衛門弐代
長兵衛ヲ以テ橋銭八厘ニ而渡シ
一右西橋仕掛橋杭并仕掛
破損ニ不及細書略ス此節仕掛
月当長左衛門弐代官ヲ以テ
一右西橋仕掛橋杭并ニ
考越ノ并ニ味ニ二月廿七日
入札ヲ以テ松ニ永仮渡ハ則仕掛
渡ス町艘ヲ渡シ
一三月六日ニ城前ヨリ厩ヲ松当ニ
被下ル旨ニ付年寄弐人立合入札

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

落札

一金三百拾七両　　東漆町　白子屋忠兵衛

右者入札書通ニ書認メ差入候ニ付落札ニ相成候ニ付絵図差添相渡候ニ付

絵図ハ下ケ候

一橋絵図仕組帳并落札ニ書付候

越前守殿ニ差出候処ニ相違無之候

一右橋来ル十九日清書ニ而差出候ニ付絵図ハ私共ニ見合書

差出候ニ付三月十六日夜越前守殿ニ御下ケ相成候ニ付

極メ金九拾両宛ニ而御公儀ニ御入金ニ相成候ニ付

右者是迄書物清書年番ニ而後中野清左衛門ニ為勤

山本左吉ニ而者ニ付ニ而ハ無之候ニ付

橋掛合ニ覚

一五間橋　長四間ニ九拾尺間

横同三間弐尺

右橋掛合仕候ニ付東ニ而側ニ小側ニ杭ニ而水際ニ杭

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

打ヶ所ハ間拾二側目ヶ拾弐ヶ所ニ付
弐拾ヶ所ハ

一浦板敷ニ而二百弐拾坪程打甲蓋有之

一笠木敷ニ而七拾間程打ヶ所ハ

一地覆敷ニ而七拾間程打ヶ所ハ

一たゝら敷ニ而弐拾本程打ヶ所ハ

ト十札ニ△

一拾八年迄第子年出仕奉願候方ニ而

一七年迄第甲年九月迄ニ水ヲ留西ノ方湊西ノ
杭数八側間数拾弐間流矢仕当日十一月廿七日
ニ而出来仕候ニ付御会ニ

仍而如件

弐千弐百七拾八両

菱木屋嘉七

清須人

白子屋嘉七

松浦源次郎

保三年ニ口請負候

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

一三年次第二号補板杉板弐百三拾九枚
同年六月廿六日出分補板代金三拾壱銭
新大橋蓋板紙代共
保護会計係

[illegible]

右之通出分杉板拆ル杭代共
下リル分補板ニ放ス平均板ニ
[illegible]

右之通出分梁ニ附木ニ放ス梁ニ附木
取切絞紙共ニ右杭ニ一面布板仕ル
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寅三月

梁ニ附木共今日ニ至リ不丈夫成候段
下リル分ハ補板ニ放ス日ニ不仕ル而ハ

越中三橋之橋迄ハ勿論ニ候得共
除キ下ル十別紙越後仕切帳弐冊越前書付殿
右之下ル
一三月十九日ニ御出橋新大橋迄御送仕候節
右之下ル
一同廿二日晩七ツ時越前書付殿ニ
右御橋御普請御寄書付差上候ニ付
当年ハ御普請御寄無之候
ゆゑ右御寄書付ニ而ハ御請不仕候
旨ニ而右御寄書付御返シ被下候
下ル
一同廿三日朝右書付ニ而ハ御請不仕候
但羽二重ニ而御請仕候
下ル
一三月廿八日御橋御普請御寄無之候ニ付
右書付ニ而ハ御請不仕候
則普請人共ニ不参候ニ付
一羽二重九日御橋普請人自ニ而
御礼金ニ而ハ無之候ニ付
越前書付殿

木野吉殿右成田日小屋下ニ而
一泊仕翌日長谷村ニ而弁当仕候而
七ツ半時ニ飯山ニ着仕候
右御届申上候以上

右御文字

清須屋下滝文之事

十今度越国橋本御領境入札ニ而
真弁諸材木打揃
御領境入札ニ而代金三百拾七両ニ而
御買請仕候ニ付御届申上候以上

千相遠御意ニ候仕三ツ下ル日限
御引日ゟ晴天ニ十日切ニ掃除運仕
可申候尤御意ニ候仕三ツ下ル荷物
ニ而ハ無之候間急度小荷ニ仕
可申候若不仕ニ而ハ荷不
取候ハ好ニ而ハ無之候仕三ツ下ル
御役所ニ而ハ荷人ニ而ハ荷人
許証ニ而ハ荷人ニ而ハ荷人
御役所ニ而ハ荷人ニ而ハ荷人

大阪表へ御渡海の節右之通
渡日家持洗人加判之洗文差上候仰付候

享保十九年寅三月

樋口六郎兵衛殿
浜田弥兵衛殿
長谷川長太夫殿

東湊町壱町目 白子屋
洗頁人 忠兵衛
永治町 白子屋彖持
洗人 嘉七

右洗文紙之表長谷川長太夫方ニ而取置之写一通宛
弐方ニ而之

一 三月二日右御書清小屋場為見分私共并下洗町
年寄名代二人指遣候ニ右小屋場ニ洗頁
人足常之通七百人程ニ而其見分之通ニ候
一 廿三日朝右小屋場絵図弐枚御奉行所
御右場ニ人極不申候分何方ニ而成共不及断候

雲ニ而長崎ニ而ハ
合ニ成ル
但和蘭ニ而ハ
院人差免ス

一中ノ堂ニ而ハ
院人差免ス

但和蘭ニ而ハ
ニ而ハ
指ス
ニ而ハ
ニ而ハ
ニ而ハ
ニ而ハ

雑書ノ部

一六月十六日ヨリ
候ニ付

一七月廿日朝
限晩迄
一七月十三日ヨリ

右墨引ハ
ニ而ハ
ニ而ハ
ニ而

縛せの上ハ橋保ニ村換多和見ニ付押ル清剛発ニ
ハ付縛せハ橋保ニも不参勿論仕放無様成振ニ
沙汰ニつき不行届ニ付重キ咎ハ無之候得共
永行ハ相成候間ハ過ニ処ス和積ニ
右ハ当私ニ
一同十六日私ニ而夜ニ入候ハ参ル半前橋宮清剛人
白子屋嘉七義ニ付橋保ニ而呼出シ清剛ニ
大工棟梁源ニ而呼出シ清剛ニ
用ニハ分ハ何ニ而ニ候哉ト申聞候ニ付橋保ニ
弐ニ而ニ候ハ保ニ而ニ候ニ付ハ義ニ付ニ
参ル半前ニ而ニ候ハ保ニ而ニ候ニ付ハ義ニ付ニ
一七月十七日清剛人白子屋ニ而ニ
参ル半前ニ而ニ候ハ保ニ而ニ候ニ付ハ義ニ付ニ
右ハ当私ニ

一九拾八ヶ

口

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

弐拾弐年新規住吉沼久ヶ亜行
七拾七年式度新規取替増ニ 百弐拾弐分
一九拾八年 笠木
同
弐拾七年新規住吉沼久ヶ亜行弐百弐拾弐分先達ヶ新規ノ分
七拾六年式度新規取替増ニ 百八拾弐分ヲ九ヶ先達ヶ包ム分
一九拾八年 笠木
同
三拾年新規小沼久ヶ亜行六拾年分
六拾八年式度新規取替増ニ 百三拾年分
一九拾八挺 員
一八年 兵着不残新規ニ仕立
男松袖松
兵着袖ニ新規ニ仕立

右ハ運漕沼久ヶ為ニ不残弐分新規住救不満也
代金百弐拾弐ヶ弐分ヲ以テ九ヶ弐厘

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

下札ニ

書面之通御入用御積取揃
差有之候分当今時之相場ニ而
金九拾八両弐分銀弐匁余引落
仕立之上

寅七月

白子屋
借財人 庄兵衛

洗人 喜七

右積書差出候分当午歳御
金四拾弐両弐分余ニ相成候
先達而落札金高三百拾七
不相変ニ而ハ引兼候ニ付
ハ不申ニ付当未ノ年ニ
ハ不申ニ付当未ノ年ニ
ハ不申ニ付当未ノ年ニ

但 拾三十九日 西御沢四ツ橋之内

西國橋之内補增小普請寫

一 弐

一 西丸橋御普請寫布板

一 壱枚寸法九拾八寸 弐拾弐寸 新規取替

一 弐枚寸法九拾八寸 拾弐寸 包板

一 弐本寸法九拾八寸 新規取替

一 弐枚寸法九拾八寸 三拾寸 包板

一 弐本寸法九拾八寸 新規取替

但長寸共従前

右者之補四ツ谷之新規御普請仕候積三分二相
渡用ハ積ニ而代金三百拾七両弐分ト銭七百文
内金弐百両ハ去ル酉年ニ取為仕候残ル三百拾
七両弐分ト銭七百文ハ新規ニ取為仕候ニ付
差引御渡被下候ニ付御請書差上申候以上

寛政十一年八月

[illegal/illegible]
[illegal/illegible]
[illegal/illegible]

候處、統ひ村扱たる小兼根村
不殘村と雖用不入清滝ひ新親
百姓宮親二の文政中年和須社領
日清見四ヶ新親布板ふと清滝
一聖正月三日橋場仁兵衛清宮
清原人日之屋宅ま来清人日之屋勤七百筆私名
出ひ江ふ文ふ今三九拾文ふ文弐分ふ三ふ橋新親仁兵
私ふ越前守殿ふ江渡ひ下野ふ殿ふ同日仁電ふ三ふ
小村義重ふ宮ふ申ひ村ひ清文ふ学

清清原下清文ふ事

一安永橋仁兵衛仁渡文ふ迄私清原
ふ三ひ深村ふ三ふ橋地宮衛等未要たら来男村神村
村多強用ひ村清ふ仁今味ふ三商原
寛今ふ三場合九拾文ふ。弐合
ふ。ふ本一式新親ふ不殘北部
御普請仕三ひ下百ふ三ひ今日私ふ北部橋
金清仕三ひ下百ふ三ひ今日私ふ北部橋
金清原右今ふ三迄北部橋ふ随ふ人会仁渡文

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

○天龍源八郎

○○○

別帳一件記之外水吐口
一同九日巳刻越前守殿来橋ヶ小書清見ノ儀ニ付
儀ニ付相見申ノ刻和ゟ方ゟ
同ニゟ杭ゟ橋拾ゟ弐ヶ所
南ゟ方ニ而ハ弐ヶ所ニ而ゟ
ゟ石ゟ柱ゟ清洗ゟ成
但右石ニ而ハ石仕候ニ付
大綱ゟ者丈夫成杭ゟ縛
場ニ而ゟ石ゟ下野守殿小姓
行渡ゟ一件別帳記之
一石油水ゟ右ゟ橋ゟ布板
ゟ儀ゟ事ニ候ゟ間ゟ曲ゟ所ゟ取外ゟ
橋ゟ洗ゟ事ニ有之ゟ
右ニ而ゟ親書ニ而ゟ
以上
一仮橋取払ニ付御普請

後来ル者ヨリ先行ノ事
一 表忠橋ヨリ及ヒ出水ヨリ布板迄ノ間
道左右ノ区別ハ下野国ヨリ会津ヘ行ク方ヲ右ト
シ会津ヨリ下野ヘ来ル方ヲ左トス
一 表忠橋ヨリ四ツ又出水ヨリ板包橋迄ノ間
行ク事ヲ
右ヲ表忠橋不通ノ節ヲ布板安蔵リ難取掛ノ節
事窺ノ為
八月十一日
右富翁建言ノ中ニ依テ下野国ヨリ奥
道ニ於テ表忠橋開通ノ節ハ会津ヨリ

一 安堂橋 此度水ニ而破損橋掛有之候
義ニ付 御届書ニ而申上候 橋幅 何間
長サ 何間 右之内 何間 何間 破損
之 御届書ニ而申上候 越前国丹生郡
小舟渡村 何之 何 何 何 何 何
何 何 何 何 何 何 何 何 何 何
何 何 何 何 何 何 何 何 何 何
何 何 何 何 何

乗船頭より右場小荷物入用積書
差上

一 五本松より水ノ口まで下り拾九里半取放桁側
長壱ツ 弐拾弐間 但拾弐側目中桁一本新規ニ
汐掛壱ツ 壱ツ 弐拾弐間 但拾弐側目中桁一本新規ニ
取替壱ツ 壱ツ 弐拾弐間 但拾弐側目中桁一本新規ニ
乞平物板不残新規ニ取替諸荷小入用

代金弐百五十五匁弐分

一 西ノ拾弐側目より拾弐側目まで下り九里半
布板壱ツ 補理ニ而ゆり込ニ九分ゆり
壱ツ 弐分ゆり込ニ而 壱ツ 弐

代金六拾七両三分

八月十二日

一八月十二日森本橋ヨリ私共ヘ参リ候ニ付越前守殿ヘ
此段御届ケ申上ル処ニ森本黄門ヨリ越前守殿ヘ通
ス故ト野守殿ヨリ此ヘ有之ニ付今日又御届ケ
ニ付越前守殿ヘ此段御届ケ申上ル処ニ御通ニ
ト野守殿ヨリ御届ケ申上ル様ニ有之ニ付
ト野守殿ヘ此段御届ケ申上ル処ニ御通ニ
一同十六日森本御領ヨリ森本橋ヨリ此ヘ参リ候ニ付
越前守殿ヘ御届ケ御領内通行ノ儀ニ付
今朝手紙ヲ以テ申来ル
一八月十六日夜八ツ半時ヨリ夜ニ入リ大風雨ニ大川
書ニ而ハ越ル十七日庭中ヘ十六日ヨリ大風雨ニ大川
通ル海水森本橋危有之ニ付通行不相成ト手紙ヲ以
ふ通ル先ニ而ハ御用人衆ヨリ手紙ヲ以テ申来ル

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

一羽拿七日ニ而新御橋陰御橋
橋くい三ツ通り小挽ニ而
ニ而ハ新大橋ニ而
御橋番中ニ
但御橋毎ニ拾弐側同中杭
杭ニ而ハ
杭ニ而ハ新大橋ニ而
ト認ル分新大橋ニ而
一同十九日御橋お水ニ而
書来候節ハ分ニ而
八月八日十七日お水ニ而
一御橋当八月八日ニ而
杭ニ而ハ
杭ニ而ハ
杭ニ而ハ

一雨水新橋より元番太郎弐拾間
一西六側目より拾七側目まで長二拾七間半
　但両側ゟ中杭二本ニ而間数
　弐拾八杭ニ付
　　金六百拾八文弐分
　杭壱本ニ付金七拾八文
　弐拾八杭ニ付金拾弐文
　　代金九拾弐文弐分

下ケ杭ベ

一雨水新橋より元番太郎弐拾間
一西六側目より拾七側目まで長二拾七間半
　但両側ゟ中杭二本ニ而間数
　弐拾八杭ニ付
　　金六百拾八文弐分
　杭壱本ニ付金七拾八文
　弐拾八杭ニ付金拾弐文
　　代金九拾弐文弐分

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1　　ガラス使用

一八月廿日森御頭ヶ兵衛ヶ
差出候越前守殿小姓
渡辺二日小窺ニ而
一同廿二日森権佐
諸頭人ヶ
下ヶ諸頭人ヶ
有之ヶ
ヶ
ヶ

一八日 安生橋呂代取掛り小
但場所 当清酒屋源次今日長
下役神田弥八郎 長平清蔵ヲ
小清屋 源次
一 安生橋江戸元私荷物ヲ南
百補四百残新規場所当清酒
同十七日安政弐卯年酒荷弐
安生橋ヶ所当清酒屋仕
取払酒荷弐ヶ所統本或ハ附本仕
酒荷弐ヶ所新規ヲ拵
樽代金九拾七百
酒荷弐ヶ所新規ヲ拵
樽代金九百九拾八文
樽代金九百九拾八文
右二口合金六百九拾六文場所人用ヲ
差出ス日切ヲ以小清屋取掛リ
金弐拾四文ヲ以仕入ル

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

[illegible]
小普請組仲間
[illegible]
[illegible]
[illegible]

享保十九年寅八月廿三日

[illegible]
[illegible]
[illegible]

為ニ吳代取扱罷出當ル
小姉書ニ
乃ち一名ニ

八月廿八日

稲生下野守

一 右之廿八日 御城ニ而伝達ル
九月十一日新抗式拾建振り相撲
一 同十二日隅田川ニ而 御入覧抗震ル
大鉋言様ニ為 成ル身入ニ而ル
尚日表小禮ニ相済ル九半時
還御ニ 御用除リ之上 番頭
書役ニ而小屋ニ引渡
井田喜左衛小尾元次郎相済ル

一 同十三日晴付ニ而取抗震り相撲
抗震り中ル十七日ニ抗板包ニ取揚
但廿日表小禮ニ而ル越前守殿
外抗震ニ而ル和子二日ニ而完揚

一拾弐側用

但右杭繞末長六間ニ長六尺ノ板ヲ以テ

芝着ノ度ニ水ニ扱ヲ中ル

南耳杭繞末長八間半

但右杭繞末長六間ニ長六尺ノ板ヲ以テ

芝着ノ度ニ水ニ扱ヲ中ル

小耳杭有末長匠弐尺八寸杭ニ当ル度繞末

芝着ニ水ニ扱ヲ中ル別条ニ之ヲ

板入弐百六尺

一拾弐側用

但右杭繞末ニ長六尺ノ板ヲ以テ

芝着ノ度ニ水ニ扱ヲ中ル

中杭新末棚長九間　末口ニ寸九寸　板入ニ間

但附末ニ寸　中八寸　元口尺ニ寸ニ流渡相ヒ

一長木橋　御船蔵ヨリ御船入ノ間ニ長サ弐拾間

芝着ニ水ニ扱ヲ中ル

板入弐百八拾間

但右杭繞末ニ長六尺ノ板ヲ以テ

芝着ノ度ニ水ニ扱ヲ中ル

一拾弐側用

但右杭繞末長六間ニ長六尺ノ板ヲ以テ

芝着ノ度ニ水ニ扱ヲ中ル

南耳杭繞末長八間半

但右杭繞末長六間ニ長六尺ノ板ヲ以テ

芝着ノ度ニ水ニ扱ヲ中ル

小耳杭有末長匠弐尺八寸杭ニ当ル度繞末

芝着ニ水ニ扱ヲ中ル別条ニ之ヲ

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

同

中杭新木機長九尺半　末口弐寸八分

一拾二側目

但右杭純木長六尺已上ニ付六寸口根入六尺七寸

皆木度抜キ丸新木立ル

小耳杭純木長九間

但右杭長六尺已上ニ付根入六尺抜キ丸

根入三尺程

しい庇換ル寸

南耳杭有木従長四六尺六寸ニ付杭上ニ純木

中杭新木機長八間六尺　末口弐尺八寸

但右杭純木長六尺已上ニ付

皆木度抜キ丸新木立ル

根入三尺一尺

しい庇換ル寸

同

一拾弐側目

小耳杭純木長八間弐尺六寸

根入弐尺

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

但右杭長六間弐尺八寸垂ル杭口根入弐尺
若継ヲ杭ニ杭立ル

南耳杭有来後裏ヨリ弐間弐尺八寸ヲ杭ニ当ル

右ヲ垂相竟絵図面ニ記入仕候ル

東ノ
一六側ヨリ　小耳杭新木懸長六間弐尺八寸垂ル杭口根入弐尺

一九月十八日ノ垂杭教ヲ指入ヲ垂ル

一同廿一日ノ杭立根入ヲ垂ル

一同廿八日ノ杭ヲ垂ル

一同九日ノ杭ヲ垂ル

一同廿一日ノ杭

一十り二百ニ分布板補ニ
掛ル
一長三ツ分横板補ニ掛ル
一ロセル分長ニ分ル稱長ケ
ニ百ニ分ル稱長ケ
一橋長堺ニ掛ル
一橋脚ニ分ル長ケ
業ニ

芝

一橋長ケ長ケ橋ニ掛ル
一橋長ケ長ケ橋ニ掛ル
一橋長ケ長ケ橋ニ掛ル

仮橋長ケ長ケ橋ニ掛ル
一橋長ケ長ケ橋ニ掛ル
一橋長ケ長ケ橋ニ掛ル

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

一十月廿日書状時文沖須
[illegible]
先刻[illegible]文西橋板敷
[illegible]
一文西橋渡賃
一日新渡賃
一日駒馬賃
一五厩[illegible]賃

右[illegible]晩七ツ時文西橋渡横
[illegible]右[illegible]

十[illegible]

[illegible]
[illegible]

今晩七ツ時山[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

高保十九亥四月

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

一 五十嵐勘次郎外弐名ヨリ仮橋
願差出候ニ付吟味之上
十四日ヨリ仮渡之儀
願之通書面
之通申渡候事

覚

一 五十嵐勘次郎外弐名ヨリ仮橋
願之通吟味之上
十四日ヨリ仮渡候ニ付
おゐて相心得可申武銭
一仮橋ニ付
武銭完若干
掛銭ヶ程
ヘ
△

長花ニ△
右川町某沢町ニ
尾上町ニ
馬八ヶ銭
役毎ニ

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

一兩國橋仮橋類

右ハ所有主ニ於テ仮橋ヲ架シ通行ヲ為サシメ候ニ付テハ死下馬ニ心得ヘキ旨ヲ相達シ候ニ付テハ其筋ノ指令ヲ待チ仮橋ヲ撤去ス

代着天 和義兵老人分武義宛仁義
馬七ツ 義鳴籠ハ老人外
四人
御殿義兵衛分老人分武義宛ハ生憲信
好定 取渡ニ而ハ無之候ハ
信州之内義兵外若持ハ三義
信州之内義兵頭ハ先ツ
御免

十番組橋仮橋頭

代着頭ハ老人分武義宛仮橋詰番兵新大橋
取渡老人分七義宛ハ和勤ニ而差出申ハ
仮橋ハ七ツ義宛仮橋詰番兵新大橋
左ハ七ツ而渡ニ而着ハ御殿ニ而
仮橋詰番ハ新大橋辻番ハ
ニ信州之内ハ取渡ニ而ハ無之候ハ
信州之内ハ義兵ニ而ハ無之候ハ
又義

樋口弥惣兵衛
池田仙九郎

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

一石頭牙書狀并預
添書写共七百部
冲寫一百五十部
但彩色摺畫ハ別帳ニ付
仮摺并彫渡預
書留

永渡預

急ニ彫書付ニ
一両冊摺立渡ス
筆ノ摺無之候ニ
哭ニ相勤ル事ニ

永渡預者
六拾人

第弐拾壱番 私渡シ 和橋 往来之者
第弐拾弐番 橋我 橋ヲ仕掛ル
四拾壱間 渡 承リ 四ヶ月 頼ニ付 往来之者
御納橋ニ 四拾壱間 渡 仕掛ル
及候節 建直シ 橋ヲ
四弐間 私除 外ニ
私渡シ 仕掛ル
和橋 往来之者

寛永十九年 寅 月

橋掛頼

寛永十九年 寅 月 日

橋掛頼

一 両国御橋 渡 私ヲ 橋頼ニ
悪ク 書付 橋頼ニ
橋掛ル 渡 私ヲ 橋頼ニ
往来之者

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

私共儀 先年ゟ御役儀大切ニ相勤申候
処数度ニ御役儀ニ付も御意悪敷ニ而
ニ付 御勘気難有奉存候 然而ハ
ニ付日数おゐて閉門ニ而
私儀ニ付 御勘気ニ而
ニ付 御意悪敷ニ而
御勘気ニ付 御意悪敷ニ而
自今入用ニ而 御役儀ニ
御馬廻ニ而 武術ニ
武術ニ付 御意悪敷ニ而
私ニ付 御意悪敷ニ而
御意悪敷ニ而

享保十九年寅閏正月廿日

〃 〃 〃

〃 〃 〃

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

御奉行所様

新大橋
西國橋
新大橋
永代橋
永代橋
新大橋
西國橋
永代橋

一、此度新大橋西國橋御掛渡ニ付
一、悪業者有之候ハヽ
一、一切渡世人入札ニ仕候ニ付私共

蔵屋
蔵右衛門
同断
同断
同断

御奉行所様

享保十九年寅閏月　　東濱一町目　名主　義右衛門

仮橋掛

長州
萩川町
萩沢町　町人共

乍恐以書付奉願上候

一此度五箇橋新大橋仮橋之儀ハ私渡し仮橋ニ御座候ニ付而ハ格別之御手当ニ而ハ私共渡し方ニ而ハ難渋仕候ニ付此度仮橋之儀ハ前々之通私渡しニ而御許容被成下候様仕度奉願上候

一此度仮橋ニ而ハ通行之者ニ而ハ勿論荷物等ニ而も通行仕候ニ付仮橋之儀ハ前々之通私渡しニ而御許容被成下候様仕度奉願上候

一五箇橋之儀ハ永渡し賃銭徴収仕候ニ付而ハ

之通請取仮橋お掛ケ
候ニ付雇人一人ニ弐銭宛
御免ニて御下ケ
四箇月ニ付右之通
之事ニて仮橋江掛
御差越ニ付請取
組ニて差出ス
享保九年寅四月

右川町
名主 久次郎

寅ノ月
仮橋預

預人 荏原郡
品川 森右衛門
同断 同人 西右衛門
品川 年寄 善右衛門

荏所元町
同断尾上町 町人共

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

享保十九年寅四月

御奉行所様

日本橋二丁目

家主 [illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

新大橋通

名

享保十九年寅四月

御奉行所様

右七通之訴状差添、
両国橋
新大橋御普請之者船渡
候橋例書
差

一新大橋拾六ヶ所渡船賃銀之儀、
船橋ニ而ハ往来之人
人夫賃ニ而渡し、其侭同前
一右橋七ヶ所船中年
船渡し
候ニ而ハ
渡ニ而ハ
候ニ而ハ
勤ニ而ハ
一両国橋十文
之者船橋ハ
人ニ而ハ
ニ而ハ
勤ニ而ハ

一 右橋七年洪水流失仕候節
其沢町家屋敷
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

仕垂〳〵ト
一 右差場東之方御石場
通之儀ニ付、義本
御掛合之処、武拾壱十弐日
御答之通ニ候ニ付、
この度ハ渡則
御使ト
一 右御石場義本石垂行届ニ
つき拾壱十六日越前守殿
百石渡人ニ
この度御使ニ
御掛合之処、
百石渡人ニ
一 右御石場今日請負人ニ
渡人半三郎ト
但義本差引之場所ニ
御石御渡ニ
右之渡本有差引之場所ニ
元別ニ
御垂〳〵ト

覚

一 仮橋一条日光御社参ニ付御入用ニ而
人ニ相渡シ申ニ付我等家来行馬場厳敷
申付候処ニ而代官清兵衛ニ而
我儘ニ而
行列ニ而
七百九拾ケ所ニ而
四箇所

一 仮橋一条日光御社参ニ付御入用ニ而
右之通ニ而
六月十九日

下野守殿江掛合書扣

覚

一 仮橋ニ付馬場
厳敷申付候処ニ
四箇所ニ而

一仮橋一基の中ニ社壱ヶ所
右之通越前守殿ニ申上候付
六月十九日
御右場ニ立合之事

定

一大御所御石場ふたわて
御用なきニ付一切
かけ申間敷候事

一荷物ハ揚へ
きれ事

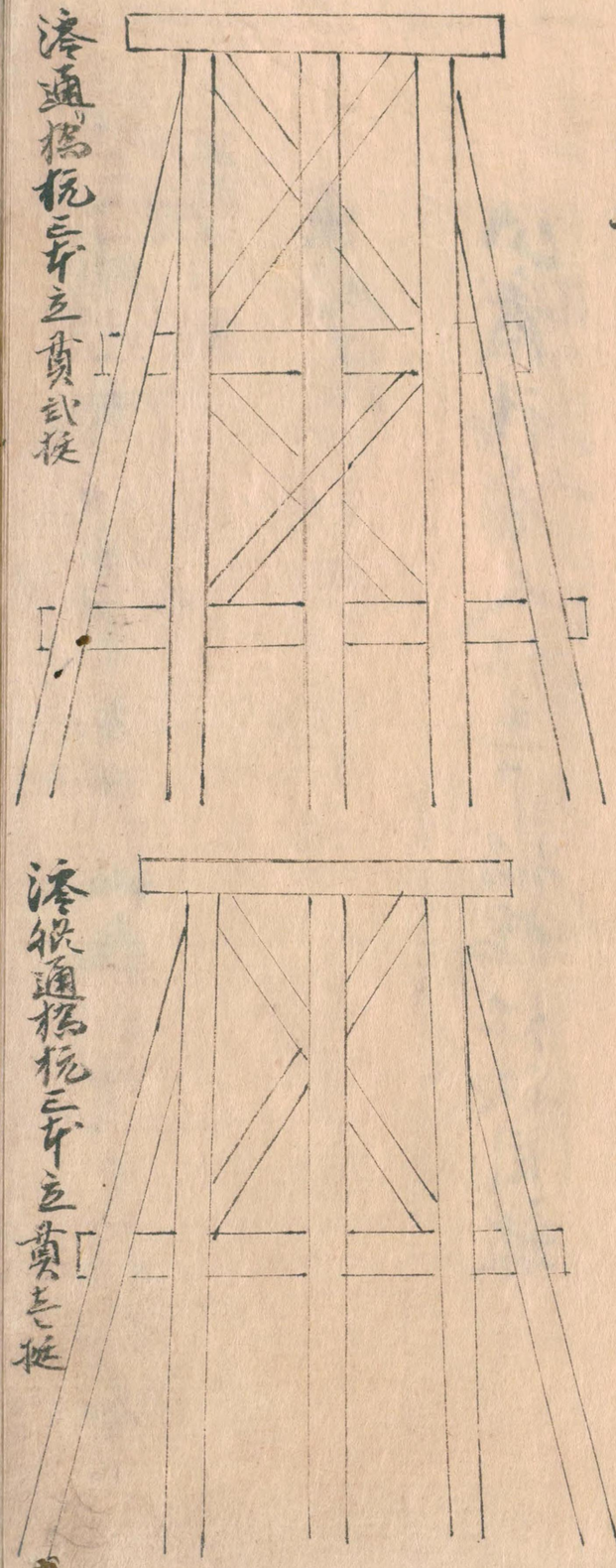
一ちまたのくた拾
俵ハかりの事

右遠祀の儀ハ
乃井事を以
六月日 奉行

右之寸尺を以て実地へ御沢に之
一、表間仮橋板木引巾六尺二間之
張人夫二人ニ而日ニ七拾本宛出来
拵仮橋迄之分
一、表間仮橋仕組帳
但橋銘別紙ニ
一、御私御通間之所
一、溝御通間之所ニ而梁九寸角
弐人ニ弐寸六寸角但四通
一、大間根ニ所ニ
一、右ニ間梁九寸角新橋長ニ
但四通

一 右之外二間以下之橋梁八寸角之
二間以上之橋梁ハ壱尺角ニ仕立
一 敷桁板壱枚ニ付
弐枚宛
一 高欄竪杭
一 馬除張出シ壱ヶ所ニ付弐ヶ所宛
一 渡板長八尺壱寸巾弐尺壱寸
七寸厚木ニ而造之帆柱ニ而振り
交当入レ申候

一 渡板掛杭大杭九尺長六間ニ
一 敷桁ハ壱尺
一 敷桁ハ壱尺大杭九尺長大間ニ
一 敷桁通り貫ハ壱寸六寸
一 御船 御通り間ニ天井板別ニ而張申候



国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

右之通七年以前未収
分共ニ仕
宮内

一 弐百拾俵 式俵ニ付壱円ニ
　 内 拾俵側 弐拾人側ニ付壱
　　 弐拾人側ニ付壱
　　 弐拾人側ニ付壱

長七百米間垂ニ三人ニ付壱
　 但帳掛銭掟之文
長六間間垂ニ三人ニ付壱
　 但帳掛銭掟之文
長四間六間間垂ニ弐人ニ付壱
　 但帳掛銭掟之文
長三間弐間間垂ニ壱人ニ付壱

一 弐拾俵ニ通ニ拾壱束
　 内 大弓間壱束

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

一梁巾拾弐間　内六間ハ
三号
弐号ハ二十六間

一支板幅壱尺弐寸　厚弐寸

一欄幅壱尺　厚弐寸

一高欄遠幅弐寸厚壱寸

一高欄巾板九枚

一人除三ヶ所壱号ニ間

右同線ヲ以テ度橋橋脚人夫国役普請ヲ以テ
ニ間ヲ以テ九拾九箇所ヲ架設シ年々
年ヲ経テ老朽ニ及ヒ

一橋巾　御私領ニ而橋ヲ架セス渡船ニ而
私設ニテ通水盛宜ク橋中抜ク
有之ニ付巾ハ御私領ニ有之分ハ
名主取調ノ事

一橋木之儀ハ人夫ヲ以テ
是ハ前ノ例ニ准シ
右ニ准シ

一仮橋掛木抜取候節ハ兼而大取元之
松元之帳書ニ記之江合之
節重取調之義ニ候江文有之
当谷之木改之節ハ澤山ニ
元之通水底へ入候ハ
丈夫ニ有之大工取扱之
ニ而ハ無之哉

一六月廿日分掘立屋敷方掛り
児谷ハ日数廿日程之
人夫中ニ而賄有之候
書有之候哉

一寛和元酉年尾ニ而ハ名元七年江前ニ
安政ニ而継業仕候有之候
この元年ハ六月廿日ニ
ハ安政元年ニ仮橋
甚兵ニ義元ニ有之
出し申候ニ付
九ニ而書出し

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

一 以後両国御橋御修復
幷元町尾ノ上ノ
幷御普請所様ニ
御備元町尾ノ上ノ
御普請所ニ
一 七幷御船手
御普請所様ニ
一 同幷御修復
ニ付幷八ツ山
尾ノ上ノ
御普請所様ニ
備シ候
御備元町尾ノ上ノ
之内元町ニ
一 御普請所ニ
御普請所様ニ
一 同幷御修復
ニ付幷八ツ山
尾ノ上ノ
御普請所様ニ
備シ候
御備元町尾ノ上ノ
之内元町ニ

右之通今朝仕法之儀ニ付深川町同前之事故異議
無之候間為致
申候以上

深川町 伊兵衛

同 森右衛門

同 三郎左衛門

寛保十九年亥六月

一六月廿四日尾上町ゟ御三卿御領分和歌山御城下ゟ
御飛脚到来之節御渡船之儀ニ付深川町ゟ
差出候書付之写

和歌山御城下ゟ御三卿御領分江戸御屋敷江
御飛脚到来之節御渡船之儀ニ付深川町ゟ
差出候書付之写

一六月廿四日尾上町ゟ御三卿御領分和歌山御城下ゟ

流矢一件并仮橋要路一件を別帳に記し

一六月廿日越前守殿より仮橋之儀申来候ニ付
注進致候処ニ越前守殿より
この節は費御遠慮ニ及ハす
不苦候条仮橋江文ニ而
取ニ出候ニ付其筋ニ而ハ渡ニ
京都仕度旨ニ而
一翌廿一日仮橋ニ而
渡ニ会ニ付
兼沢町
毎度ニ而
一廿六日越前守殿より仮橋之儀
ニ付御側
卜云ふ
お勇書付
但長岡橋ハ
六郎
水防役
下駄ニ而

西國飯掛三飯之有書

口上書

西西飯掛不文字ニ有之候ニ付
七年江戸幕中年飯掛と
書ニ而取次候ニ付九州ニ而ハ遠路不文字
之飯掛ニ而ハ遠路ニ付七年江戸幕飯掛と
書遣ス飯ニ而ハ無之候ニ付飯掛を飯文字
右之通ニ候ニ付此段申上候以上

寛六月廿六日

平所元助
日尾三助
町人共

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

寛文六年九月六日

表門橋仮橋ニ仮倉普請

口上書

表門仮橋不丈夫ニ有之候間、仮倉普請申付候ハヽ、不丈夫ニ候ハヽ、仮倉不残可申付候、尤仮倉ハ七間ニ弐間ニ仕候ハヽ、可然哉、此段御伺申上候、以上

九月六日　　源忠勝

御老中

覚書

表門仮橋不丈夫ニ有之候間、仮倉普請申付候ハヽ、不丈夫ニ候ハヽ、仮倉不残可申付候、尤仮倉ハ七間ニ弐間ニ仕候ハヽ、可然哉、此段御伺申上候、以上

九月六日　　米沢町　　源忠勝

御老中

右之通、今日御届申上候、以上

九月六日　　名主　　善四郎

表門仮橋ニ仮倉普請

表門仮橋不丈夫ニ有之候間、仮倉普請申付候ハヽ、不丈夫ニ候ハヽ、仮倉不残可申付候、尤仮倉ハ七間ニ弐間ニ仕候ハヽ、可然哉、此段御伺申上候、以上

九月六日

建築ニ係ル分ニテ支ニ二町目
茶沢町三町目
家主 八郎兵衛
〃 佐兵衛
〃 源九郎
〃 和七

同所武町二町目
家主 右九郎
〃 伴兵衛

同三町目
家主 長兵衛
〃 嘉兵衛
〃 源次郎

吉川町
家主 市九郎
〃 七兵衛
〃 長八

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

悦松人ニ於テ之ヲ承諾ス
尤仕着ハ通例ノ人ニ下ル
ニ非ス常ノ心附ヲ以テ
ノ外ニ和泉ヨリ特ニ
人ニ下ル

一六月廿九日職業紹介所ヨリ飯福
ヲ以テ紹介シ置キタル馬淵
和吉ハ本日ヲ以テ右ノ通リ
有之候ニ付此段届ケ
ノ為メ

一飯福儀去七月二日迄ニ大概出来
仕上ノ日ヲ以テ飯福儀来ル
場ニ機織場ニ定メ
建ニ候ニ付テハ
定書ヲ取リ
則チ其ノ一ヲ

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

七年以来申年仮橋賃
又云茶沢町名主私共
外国仮橋継来賃銭出ス
一町人一日壱人分弐銭
一町繁者壱家壱人分右同断
一荷持茶屋おい壱人分三銭宛

一警護かさ　但町人壱人分弐銭宛
一詰賃馬口付共　但銭弐
仮武士方荷物賃銭出ス

右之通差出候様来ル仕候
申十月

公度仮橋張員人夫出役ノ義ニ付越前書翰ニ

五國仮橋継立ノ義ニ付御沙汰ノ覚

一町人一回ニ

壱人ニ付弐銭宛

一町醫者出役

壱人ニ付弐銭宛

一荷持等ハ

壱人ニ付弐銭宛

一馬ハ

壱疋ニ付弐銭宛

一諸荷馬口附等ハ

壱人ニ付弐銭宛

右之通差出候様可致候事

巳七月

公板扎ヶ条ノ外東両ヶ条ニ付

仮橋

張員人

右書状到着次第御渡し申候御掛合申上候
尤御渡し申候御掛合申上候迄ニ而
其元ニ而御取計之義ハ不申上候
以上

覚

一御借橋之上小屋
一番所ニ而不渡
一往来之者
一荷物

右之通ニ候間御心得可被成候
以上

寅七月

右之通ニ候間御心得可被成候
尤御除之節ハ三日前ニ御通知可被成候
以上

一七月廿日附ノ七ツ半時ノ表書ノ飯櫃人数ノ儀
飯櫃雑煮ノ儀ニ
附リ雑煮ノ飯櫃ニテハ
ナク通常ノ表書ノ飯櫃ニ
七月廿日
飯櫃雑煮ノ雑煮ハ
表書飯櫃ノ分ノ如ク
其外ハ御飯ニ
第二ノ日人数飯櫃ノ通リ
雑煮ニテ
塞キ
物合セ
今朝ハ不残雑煮ニ
ツノ通ニ
飯櫃ニテ
ハ
飯櫃ニテ
ハ
飯櫃ニテ
ハ

七月廿日

飯塚義彦宛雑葉

神田高橋八番

懐柏可有在宅

右ハ八番

右ハ添八

右ハ九番

日武門同添紙

日命門同添紙

西飯隈指物番

神田松本町同湯屋

伴栗次

右三番

右三番

右三番

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

七月廿日

但新潟表ニ而御取扱之義ハ御除キ被成
候事

南部領之儀ハ御取扱之義ハ御除キ被成
候事

但南部之儀ハ御取扱之義ハ御除キ被成
候事

但鹿ノ子ハ御除キ被成候事

同縁

三一　新大橋渡被申者私渡頼書　壱通

四一　表門橋渡被申者私渡頼書　壱通

三一　日人仮橋頼書　壱通

七一　新大橋表門橋張番人仮橋証書　壱通

六一　長川町兼帯町人共仮橋証書　壱通

五一　築地元町尾上町町人共仮橋証書　壱通

七一 新大橋過書福富又兵衛御船
　　并松波平三郎
八一 西雲院 御書物之箱 御船例書 一通
九一 越前吉殿用人中分来状 一通
十
十一 西雲御船福富能文
十二 小野吉兵衛書
十三 七月廿日申并御船注文 一封
十四 石御船御証来有合記置 一冊
十五 宍六月西雲御船之義市尾ニ而 一冊
十六 石月ヲ来深谷吉川所人衆名前 一冊
十七 申并御船笑銭板札并有合 一冊
十八 菊宍并御船笑銭板札建札 一冊
十九 七月廿日新御船之銭吉祥寺 一冊

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1
ガラス使用

右之者ニ名雇入仕候
右一件一代ニ候ハヽ
宝
八月

一二通

一八月廿日夜相撲之節
九ツ河岸之寿満来ニ而相撲落通ニ而
有之候処ニ
右之通ニ而ハ
無之候ハヽ
一同ニ有増書取家ニ
帰候而ハ
ニ而
書取
候者ニ
相違
候

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

八月十二日

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

八月十二日

一八月十二日朝廷ヨリ勅使ヲ以テ
先帝式年御遠忌ニ付御宸翰
宸筆御法華経ヲ奉納ス
勅使ハ
権中納言藤原朝臣
清閑寺大納言
勅使ハ
権中納言藤原朝臣
清閑寺大納言
勅使ハ
権中納言藤原朝臣
清閑寺大納言

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

元

八月十日

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

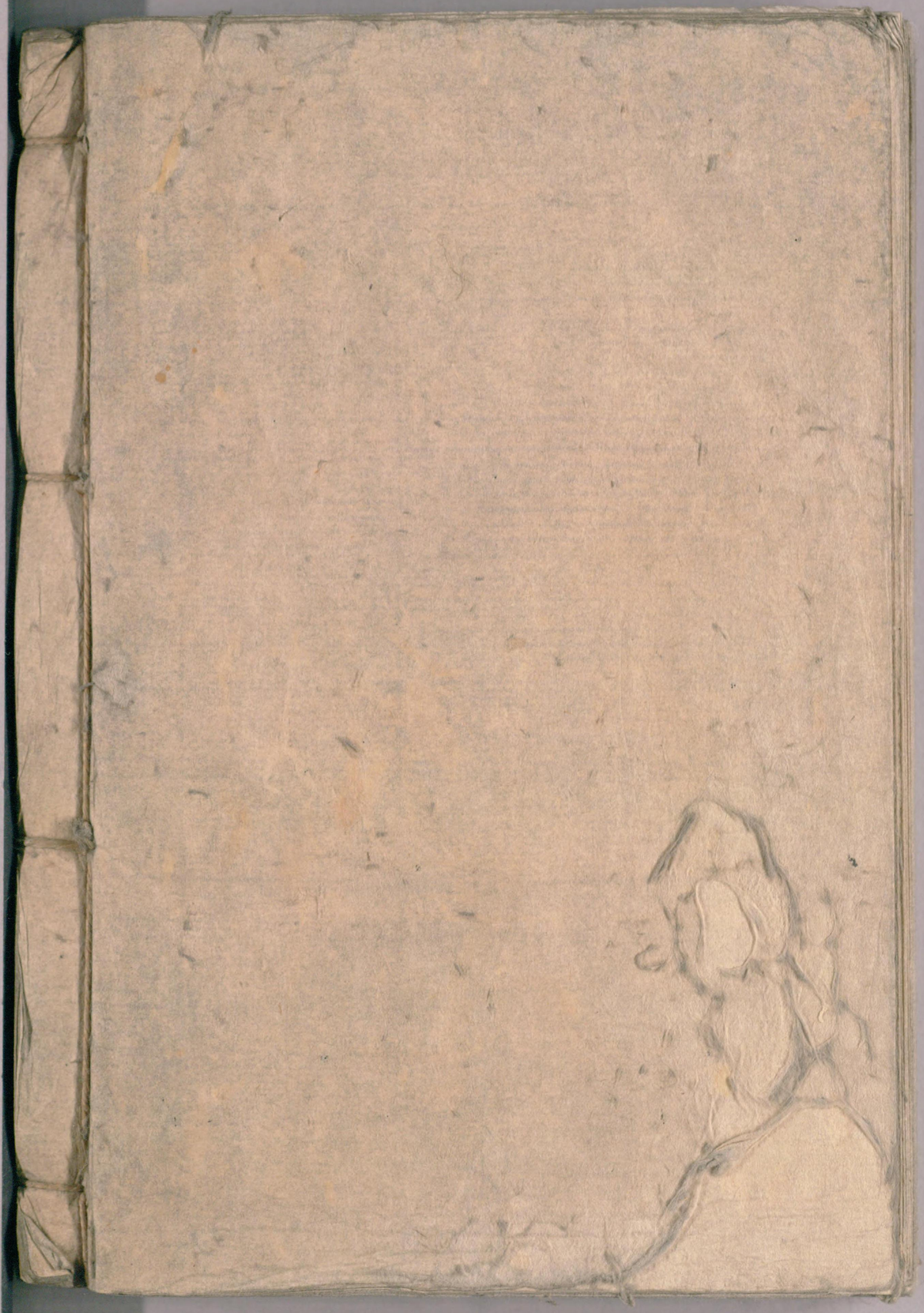
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『三橋以下橋々書類』　請求記号 809-1

ガラス使用